

平成 28 年度 第 3 回長野市環境審議会 議事録

- ・ 日 時：平成 28 年 11 月 4 日（金）午前 10 時から正午まで
- ・ 場 所：長野市役所第二庁舎 8 階 会議室 282
- ・ 出席者
委 員：大澤会長、高見澤副会長、伊藤（亜）委員、久保田委員、小林委員、渡辺委員、青木委員、金井委員、宮島委員、井出委員、伊藤（睦）委員、小川委員、駒村委員、清水委員
事務局：井上環境部長、田口環境政策課長、宮尾環境政策課長補佐、山岸環境政策課長補佐、
峯村地球温暖化対策室長、塚田廃棄物対策課長、瀧澤生活環境課長、馬場清掃センター所長、
大葉衛生センター所長、鈴木係長、吉岡係長、辻主査、酒井主査

《 資料 》

- ・ 会議事項
 - (1) 長野市地球温暖化対策地域推進計画の見直しについて 資料 1
 - (2) 第二次長野市環境基本計画後期計画策定に係る意見について 資料 2 - 1
 - (3) 第二次長野市環境基本計画後期計画の概要版について 資料 2 - 2
 - (4) 第二次長野市環境基本計画後期計画の素案について 資料 2 - 3
 - (5) パブリックコメント及び今後の予定について 資料 3

第二次長野市環境基本計画（本編）

1 開 会

2 あいさつ

3 会議事項

- (1) 長野市地球温暖化対策地域推進計画の見直しについて
資料 1 について説明（事務局）

(A 委員)

C02 排出量を 2050 年までに 80%削減するというのは非常に厳しい課題だと思います。

化石燃料等で固定化されていた炭素が大気中に激しく拡散して現在に至っているわけで、最終的にどのようにして固定化していくかということについての議論が必要だと思います。

(峯村地球温暖化対策室長)

推進計画の中でも、森林の C02 吸収に関して言及しており、C02 の排出抑制と合わせて森林の保全等を進めていくことで C02 を固定化していく、ということも重要な視点と考えます。

次期の長野市地球温暖化対策地域推進計画については、定期的に見直しをしながら、80%の C02 排出量削減を目指していく形になる予定です。

(B委員)

今年から建築物省エネ法がスタートしまして、断熱基準等が数年後には義務付けられますが、施策2-1と2-2においてリーディングプロジェクトとして○がついていませんが、重点的なプロジェクトではないということですか。

(峯村室長)

具体的な事業としてここには記載がございませんが、来年度、事業所に向けた啓発ツールとしての事業を現在考えておられて、省エネルギー活動や再生可能エネルギーの導入への啓発普及に注力する予定がございます。

ご指摘のとおり施策の2-1と2-2には○がついていませんが、省エネ活動や再生可能エネルギーの導入によって、事業の面での採算性の向上や、企業の社会的な責任を果たしているというアピールをすることによる企業イメージの向上、そういった内容を中心に普及啓発に取り組んでまいります。

(C委員)

地球温暖化対策としての森林の役割についてはよくいわれますが、実は森林が温暖化対策をしているわけではなく、森林というアイテムがあって、その中でCO₂を固定化する重要な物質が水であり、水があってはじめて森林が機能し、空気中のCO₂を固定化するという仕組みになっています。

しかし、地球上の水は、地球が誕生してからこれまで変わらず一定量ですが、使用可能な水というのは減少してきております。

この方針4において緑化の推進と熱環境の改善を考えるのであれば、森さえ作ればよいということではなく、水がなければ森林はCO₂固定化の機能を果たさず80%のCO₂排出削減目標達成は難しくなりますので、森林の保全・緑化の推進と合わせて、水環境の保全を謳うべきだと思いました。

(峯村室長)

検討させていただきます。

(井上環境部長)

委員のお話をしっかりと受け止め、専門部会で協議をさせていただきます。

(D委員)

具体的に計画の推進体制について、どのように考えておられますか。

(峯村室長)

計画の推進体制につきまして、主には専門部会において庁内における具体的な取組をとりまとめ、年次報告という形で部会に上げさせていただき、それぞれ目標を設けている細かい事業についても、部会に報告を行い、専門部会の部会員の皆様のご意見をいただいて次のステップに生かしていくという形で考えております。

事業者の皆様や市民の皆様により知っていただかなくてはいけない、より取り組んでいただかなくてはいけない、そういった内容のものがあれば、その部分の普及啓発については更に充実させていくといった形で見直しと進捗管理を図ってまいりたいと考えております。

(D委員)

こういった計画を進めていくには、市民にいかに知っていただくかということが大事なことだと思いますので、周知の工夫について本当に考えていただけたらと思います。

(峯村室長)

広報ながのや、広報ながのでホームページに掲載してありますのでご覧くださいといったご案内と組み合わせる等、工夫をいたします。

(E委員)

低炭素行動の促進の中に、脚注で低炭素行動の説明が記されていますが、低炭素行動の市民の方に対する促進について、どのようなイメージを持っていらっしゃいますか。

(峯村室長)

例えば、ご家庭向けの古い大型家電だと、電気料金の面からお買い換えのご案内をさせていただいたり、直接的には太陽光発電や太陽熱利用設備の設置に対する補助、省エネに関しては、今年始めましたエネファームの設置補助をさせていただいています。

ご家庭向けにはそういった直接的な支援も含めてご案内をしておりますし、事業所に対しては、空調設備をより効率のよいものに変えたり、地中熱利用や太陽光発電設備の導入による本来の事業の面でのメリットについて合わせてご案内する等、今後更に充実させていこうというものでございます。

(E委員)

そういった意味では、今までもやっていましたが、更に継続するということですか。

(峯村室長)

継続しつつ、更に充実させていきたいと考えています。

(吉岡係長)

国のほうで、昨年からクールチョイスということで、賢い選択をして温暖化の対策という運動を国民運動として広げようという動きがあります。

それとも連動しまして、その動きを工夫しながら取り入れ、さらに皆様に周知を図っていきたいと考えております。

(C委員)

実は家庭向けに限らず低炭素行動の周知において、エンカル消費、日本語に直しますと倫理的消費というのがキーワードになってまいります。

どの商品を選べば二酸化炭素の排出量が少ない、熱効率が最もよい、地球環境全体に優しい、あるいはその製品を作っている労働者に優しい、といったことを総合的に考えるのがこのエンカル消費の考え方ですが、この様な観点から低炭素行動の促進を推し進めていかないと、改めて新しい計画を立てるにあたっては不十分だと思いました。

(峯村室長)

国のほうでもトップランナー制度ですとか、省エネに関する表示義務が厳しくなっておりまして、市としては、どれを選ぶとよいのかということについては、ここをご覧くださいといったご案内をしていくことになろうかと思えます。

頂戴しましたご意見も踏まえまして、実際の取組の中で進めさせていただきます。

(D委員)

この低炭素行動という言葉については、言葉自体になじみがない感じがします。

注釈はございますが、もう少しわかりやすい説明をつけていただきたいと思います。

(峯村室長)

専門部会の中でも 同様の意見がありました。

最終的にこの形になったのは、具体的な行動に移していただいて初めてこの計画が生きてくるという結論からで、計画の本編の中ではわかりやすくご案内してまいります。

今後の推進計画につきまして、ご意見を踏まえ、よりわかりやすい周知に努めてまいります。

(井上部長)

部会長が同席して、前年度の進捗状況について専門部会からの説明を毎年行っていますが、今年は計画の見直し時期に重なってしまい説明の機会がありませんでした。

次回の環境審議会に専門部会の部会長が同席できれば、皆様との意見交換の場面を作りたいと思っています。

(F 委員)

施策 1 の 6 と 7 について、検討と書かれていますが、検討よりももう少し踏み込んだ形で実現、ハードルの高い話で申し訳ありませんが、長野市として方向性をはっきりとさせて組み込んでいただくことも含めてお願いしたいと思います。

また、我々が炭素を減らすには水素社会を築くことが一番だと思っていますので、色々なところと連携を図りながら、長野市としてもしっかり軸足を作っていく必要があると思います。

(峯村室長)

水素を始め、その他の再生可能エネルギーも、技術に関しては日進月歩でございますので、新たなものを取り入れていきたいという思いは強くございます。

計画の中では普及検討とありますけれども、積極的な導入に向けて考えますし、尽力してまいります。

(A 委員)

低炭素行動の具体例の中に、製造から利用のトータルでという言葉を入れていただきたいと思います。

(峯村室長)

検討します。

(2) 第二次長野市環境基本計画後期計画策定に係る意見について 資料 2 - 1

(3) 第二次長野市環境基本計画後期計画の概要版について 資料 2 - 2

(4) 第二次長野市環境基本計画後期計画の素案について 資料 2 - 3

について説明（事務局）

(E 委員)

指標・目標値の中に長野大通りのポイ捨て吸殻本数で 70 本とありますが、この指標の必要性について考えを伺いたいのですが。

(鈴木係長)

指標につきましては調査対処箇所を長野大通りの 10 箇所で行っていますが、長野市ポイ捨て等を防止し、ごみのないきれいなまちをつくる条例につきましては長野市域全体を対象にしております。

長野市域全体の吸殻のポイ捨て本数を数えることは不可能ですので、中心部である長野駅から善光寺までの長野大通りの状況を指標にし、継続調査を行うことで一般の方にわかりやすいように数値化をし、中心市街地だけではなく長野市域全体のポイ捨て減少への啓発の一部としたいと考えています。

(E 委員)

長野市のポイ捨て防止の条例についてあまり知られていないと思いますので、条例の周知や路面シートでの啓発、そういった方向のほうがより有効ではないかと思いますがいかがですか。

(鈴木係長)

ご指摘のとおり、条例の周知不足はあると思います。

我々もその点について反省をしつつ、広報や懸垂幕、バスマスク等での啓発活動を進めています。

また、ポイ捨ての調査結果で特に本数の多い場所では、ポイ捨て禁止の路面シート貼りやポケットティッシュの配布などで啓発を行っていますが、具体的な数字では、減少傾向にあった条例制定直後の一時期を除き、近年再び増加傾向にありますので、更に条例の周知も含めて、喫煙者のマナー向上について今後5年間注力したいため、このような形で掲載をさせていただきました。

(B委員)

個人的には全面歩行禁煙に踏み切ってもよい時期ではないかと思います。

(井上部長)

条例では、ポイ捨ては禁止していますが、歩行喫煙については努力義務という形です。

ポイ捨て・歩行喫煙について罰則規定を設けるべきだというお話は既に頂いていますが、全てを規制するという点について如何なものかと感じております。

条例の周知不足については我々の努力不足でもありますので、周知啓発に力を尽くし、その後で罰則規定について考える、そのように話は進んでいくと考えております。

罰則規定を設けるという段階には至っていないと考えています。

(G委員)

地域の住民にやさしく浸透するような形での条例や規則の周知徹底が必要ではないかと思います。

この環境基本計画の事業の実施においても、市民レベルでの活動が非常に多いと考えます。

常に新しいリズムを取り入れる必要性もありますが、政府の新エネルギー戦略等もそうですが、新しい技術を開発することで解決を図るという考え方は、我々がやるべき環境を守るという意識とは矛盾する部分もあると思います。

市民意識として普及させるには、地道ですが我々ができることをしっかりとやるというところに重点を置いた今後の推進方法を是非工夫していただきたいと思います。

(井上部長)

上から下へやってもらうトップダウンの形ではなく、市民運動、社会運動として盛り上がるのが、広がりを見せることにつながると思いますので、そのような対策を進めていきたいと思います。

(A委員)

タバコのポイ捨てについて、長野大通りで10箇所という話ですが、点的な調査に加えて線的な調査を行えば対策も見えてくると思いますので、是非線的な調査もお願いしたいと思います。

(F委員)

市民の方々は環境に良い、優しいことをしなくてはいけないということはわかっているけれど、具体的な方法に結びつかないというのが現状だと思います。

ここで我々が知恵を絞ってこの立派な計画を作るわけですから、やはり市民の方々にどうやって伝えるのかが一番重要で、そのやり方を工夫しないと絵に描いた餅で終わってしまいます。

自治協や学校等色々な所へ行ってこちらから能動的に説明して歩く、理解をしてもらうまで伝えるという作業が大事になってくると考えます。

計画をここで作るというのは大事なことですが、これをどうやって市民の方に理解してもらうのかということをしっかり計画を立てておかないといけないと思います。

(井上部長)

まちづくりアンケートによりますと、長野市の生活環境に対しては非常に満足されている方や環境行政に関して理解を示していただいている方が多いという結果が出ております。

ゴミ袋の有料化以降、現在もごみの排出量の減少傾向が続いていることから、長野市の皆様は環境

に関する意識が非常に高いものだと思いますし、非常に深い部分でご理解をいただいている証拠だと私は思っています。

ご指摘につきましては、踏まえさせていただき進めていきたいと考えています。

(大澤会長)

目標の6ですが、環境学習会の年間参加者数5,000人とありますが、5ヶ年計画の中で単純に5倍すると2万5千人、環境意識を持っている人がその中からリーダー的に長野市内で動いていく、そういったことが全体的に環境を改善していくということにつながっていくのだと思います。

(D委員)

具体的には環境学習会はどんなことをやられているのでしょうか。

(鈴木係長)

自然観察会や水生生物調査ということで川の生き物調査、自然エネルギーに関する学習会、星空観察会を兼ねました、光害についての学習会を行っています。

(D委員)

講師は、環境政策課の方がやっておられるのでしょうか。

(鈴木係長)

専門の長野県環境保全協会の方ですとか、星空の場合ですと、博物館の学芸員の方等をお願いして行っております。

自然エネルギー学習会につきましては、長野県地球温暖化防止活動推進センターと共催で行っておりまして、その都度講師の方は変わる形になっております。

(D委員)

環境学習は、長期的な目標を持って環境意識の底上げのために自然と触れ合うところから始めるもの、川の観察ですとか目の前にある短期的なもの、両方あると思いますが、目の前のものだけではなく長期的にどういったことを、私たちが意識を持つのか、あるいは市民の方に持ってもらうのかといった努力というものも別に必要になると思います。

(井上部長)

それが施策の中で実際に行っていくことだと思いますので、ご指摘を踏まえて事業展開をするように努力をします。

(E委員)

長野市では白書の中でもBOD以外にp hやDO、SS、大腸菌群数等をモニタリングしているにもかかわらず、目標値の中ではBODの平均値を使っている理由を教えていただけないのでしょうか。

(塚田廃棄物対策課長)

p hやSS等は、それぞれ特異的な要件が絡みます。

それに対して中小河川の20河川については、特定な事業者からの排出以外は生活雑排水なり有機性の汚濁負荷に対する対応だと考えますので、それを総合的に見る指標としてBODを使用したということです。

(E委員)

上下水道が普及して生活雑排水が入らなくなれば、河川の汚染のBODの値は良くなるのでしょうか。

(塚田廃棄物対策課長)

基本そのとおりですが、下水道接続等が100%できているとは言い切れない部分がありますので、やはり状況把握は大事だと考えています。

(井上部長)

実際には下水道の整備率は 100%に近い状況まで来ていますが、下水道に接続されないお宅も固定化しつつあります。

高齢化や老朽化といったことから、接続できる要件ではあるのに接続できないお宅が課題になってきていますので、この点は環境基本計画との関わりはありますが、もう一つの計画である一般廃棄物の処理基本計画の中で大きな課題として対策を進めていこうと考えています。

(H委員)

長野市地球温暖化対策地域推進計画の見直し案と、第二次長野市環境基本計画後期計画の案の内容を伺っていて、それぞれの事業が、単独の課が関係するのではなく、複数の部署が絡んで横断的になってきたと思います。

こういった方向で進めていただければ、色々な所に浸透していくと思い、良いことだと思いました。ただし、最終的にどこに向かっていこうとするのか、なぜこれが必要なのかといった理念のようなものの共通意識を図ったり、伝えていくということをしていただきたいと思いました。

それから、環境学習会について、1年間の計画でわかっているものがあれば、教えていただきたい。

事前にわかっているならば、参加が可能な場合もあると思いますので、計画がわかったらご案内をいただければありがたいと思います。

(井上部長)

これから、パブリックコメントの実施にあたっては、市民に対して意見を求めると同時に、計画の考え方を伝える手段でもありますので、現状や我々のやりたいことをどれだけ熱く語れるのか、努力をしたいと思います。

年間スケジュールにつきましては、年間で去年はこの時期といった資料は提供させていただきます。

(高見澤副会長)

提案ですが、この第二次長野市環境基本計画後期計画について、中学校において環境教育を実施するのもいいと思います。

様々な理由から本来家庭で教えるべきことが教えられていないとすれば、やはり学校の場で行うというのも、大きな啓蒙になると思います。

ごみのポイ捨てという行為は、少なくともこの国においては良くないことという倫理観がありますし、よい日本の倫理観というものを、子どもの頃から教えるというのも方法の一つではないかと考えます。

(5) パブリックコメント及び今後の予定について

資料3

について説明（事務局）

質疑無し

4 その他

(事務局)

○ 12月18日に自然エネルギー関連の環境学習会をイーストプラザにおいて開催する。

自然エネルギーとソーラーカー 光にロマンを求めて と題し、大澤会長から1時間ほど講演を頂き、その後パネルディスカッション等を予定している。

委員の皆様も是非参加についてご検討いただきたい。

- 事務局からの連絡として、次回の環境審議会は平成 29 年 1 月 20 日（金）午前を予定している。

（委員）

意見なし

5 閉 会